１．開催年月日　　令和６年５月２３日

２．開催場所　　三原駅前スペースキオラスクエア内サテラス

３．委員出席
委員総数　　6名
出席委員数　　5名

放送事業者出席者
2名

４.議題
・局からの近況報告
・番組審議について

５　議事の概要

６ 審議内容

（１）開会宣言
放送事業者からの開会宣言

（２）局からの報告
開局6周年記念特別放送

事務局「2018年5月1日開局し、開局6年周、そして、開局7年目に突入する。5月3日に開局記念放送を企画した。通常の番組に追加をして生放送を午前中の11時から夜の8時まで連続でリージョンプラザの第一スタジオからお届けした。金曜日の11時は通常ミュージックアワーという音楽番組を放送しているが、変更して『ふるさと納税返礼品番組：みんなつながるDo The Radio』を放送した。

今回の開局記念放送では、スタジオ前のフリースペースに椅子を並べスタジオ内を観覧して頂く企画で放送をした。観覧者の為にフリースペースではガチャガチャを設置しクッキーやコーヒーを販売した。観覧者は合計で80人くらいだった。

番組審議会用に準備したのは、『藤田弘之のみはら情報局ラジオ』である。番組では当初予定していなかったが、多くの人が観覧に来ているということで、見に来ていた中学生にスタジオに入ってもらい、その場で話してもらった。2時間の番組で合計4人くらいスタジオに入ってもらった。普段、リスナーの人に飛び入りで話してもらうことはないので、皆様の意見を伺いたい。

また、『竹岡健也の明日晴れるかな』では、ゲストにおだしずえさんを迎えた。おだしずえさんは他局で番組をされていた為、三原市外からもファンが訪れたので、良いコミュニケーションの機会になったのではないかと思っている。『藤田弘之のみはら情報局ラジオ』など、意見を伺えたらと思う。」

座　長「開局6周年記念特別放送の件で、なにか質問・意見はないか。」
Ａ　氏「ふるさと納税返礼品番組はいくら以上納税すれば放送権利がもらえるのか？」
事務局「1時間の権利が25万7千円の納税額の返礼品になる。10分の出演券が5万5千円、『声が時報になる』権利は2万5千円、1分間ラジオで告知をする権利は1万9千円の納税額の返礼品となっている。1時間の権利は企画書を確認して、問題なければ25万7千円の納税をしてもらっている。」
事務局「藤田さんと子供のやり取りで意見はないか。」
Ｂ　氏「ラジオならでは。飛び込みでも番組に出られる懐の広さ・地域の身近さを感じた。中学生が出たのがよかった。藤田さんもRCCでラジオをしているので、瞬発力の高さがあると感じた。」
Ｃ　氏「だれも手をあげなかったらどうしていたか。」
事務局「番組前半は多くの人がいたが、藤田さんが声をかけるため観覧の人数が減った。何人かには断られたが、中学生が対応してくれてよかった。」
Ｂ　氏「色んな市民の方が出られるのがFMみはらのコンセプトにあるから、いいのではないか。」
事務局「7周年では外にブースを設けて中継を行うことを考えている。街で歩いている市民に出演いただくことで、サプライズになるのではないか。」
Ｃ　氏「市民も慣れてくればよい。気軽にでてくれるようになれば。」

第一号議案「番組審議について」
番組名：ふるさと納税返礼品番組「みんなつながるDo The Radio」
5月3日放送分について
三原市のふるさと納税返礼品として提供している「ラジオ番組1時間制作権」によって制作、放送した番組
放送日：5月3日金曜日11時～12時まで
パーソナリティ：菅井敏行、山本真紀

事務局「『ふるさと納税返礼品番組　：みんなつながるDo The Radio』ということで、過去にラジオに助けられたことがあり、ラジオで自分の企画をしたいとスタートした。
番組は、ラジオを作っている人(増原局長)(里川有紀子)・一般の人でラジオを作っている人(菅井敏行)・ラジオを通じて音楽を作っている人(Plic Ploc)が出演者。Plic Plocは、広島県で100か所ライブを行っているバンドで、菅井さんと関係がある。Plic Plocは当日、現地には来れなかったので、菅井さんがPlic Plocとのインタビューを収録しFMみはらが編集して番組内で放送した。17分のロングインタビューだった為、内容を3分割にして間に感想を放送した。ラジオを作っている人・ラジオに関わっている人・ラジオを通じて音楽を作っている人という1つのテーマで進行をした。
菅井さんは大学の教授で話がうまい上、ラジオをずっと聞いているのでリズムがよく、準備もしっかりされていた。こちらも勉強になった。
1人目のゲストが私で、二人目のゲストがかねしょうの黒川さんだった。彼女は月一回番組をやっているので、一般の市民でありながらラジオ番組を持っているということに関して意見を話して頂いた。進行役にはパーソナリティの山本真紀。Plic Plocのインタビューも丁寧にされていたので、聞きやすかった。

初めての返礼品1時間番組だったので、皆様からの意見を伺いたいと思い議題にあげた。」

座　長「この件で、何か質問はないか。」

Ｃ　氏「内容も問題なく、進行も普段しているような落ち着きようで全然緊張も感じず、すばらしかった。」

Ｂ　氏「企画がFMみはらの番組に似ていたが、もともとそういう感じだったのか。」

事務局「もうちょっと企画の幅が広かった。海外で放送に携わっている人がいるので国際電話をかけてつなぎたいという意見があったが、時差の問題があり決行はしなかった。Plic Plocを推したいので、1時間まるまるPlic Plocの事を話す内容にしたいと相談があったが、ラジオに関わる人をゲストに迎え、ラジオに対する思いを話す番組として企画書を通していたので変更頂いた。

Ｄ　氏「番組購入者の放送後の感想はどうだったのか」

事務局「よかった。自分で1時間話し切ったことの満足感・メールを送る側だったが、来たメールを読む側になったことで感激されていた。次もやりたいと思っている。手ごたえを感じていた。」

Ｅ　氏「菅井さんは不登校時代があってラジオを聴いてはがきを投稿し、読んでもらい、ラジオによって救われた事が伝わった。

Plic Plocの最後に歌った曲がよかった。ふるさと納税を行いラジオ局で喋る権利はすごく面白い。理解できていなかったが、放送を聴いてよい試みであると感じた。」

Ｂ　氏「次は未定なのか」

事務局「未定である。納税者である東京の社長とまだ、連絡が取れていない。」

Ｂ　氏「美容の方は終わったのか。」

事務局「1月に申し込みを頂き2月には終わった。今回の菅井さんのケースは、半年近く打ち合わせした。」

Ｂ　氏「1時間は体力がかかる。6周年の内容にふさわしかった。FMみはらに関わる人の思いが伝わった。オープニングにふさわしかった。」

事務局「通常の生放送と違い、外に多くの観覧者がいる中だったが、大学の先生だけあって人前で喋ることに慣れていた。」

Ｂ　氏「ゆっくりと丁寧に喋られていた。流石先生だった。」

第二号議案「ご要望について」

座　長「今後もPlic Plocに出演いただくなど出来たらよい。」

事務局「今回のふるさと納税も、まさか購入者が現れると思っていなかった。何事もやってみないと始まらない。」

Ｄ　氏「さつき祭りの中継がうまくいけば、中継放送も増やしてはどうか。」

事務局「会場で一言、話してもらえるのは大きい。今後もやっていきたい。」